

おひさま ニュース

2020

新年号

1月15日発行



ホームページ



〒294-0014 千葉県館山市山本1155番地
TEL:0470-25-5111 <http://www.awairyo.jp/>
発行責任者：福内正義 編集責任者：根本達也

外来のご予約は 0470-25-5121へ
受付時間／月～金曜日8:30～17:00 土曜日8:30～12:00
※安房医師会とは異なりますのでご注意ください

医療の質向上と 効率化の 同時実現に向けて

社会福祉法人太陽会
理事長 亀田信介



明けましておめでとうございます。

昨年は今上天皇が即位され、平成から令和の時代となり、様々なおめでたい行事が行われました。一方、異常気象が原因と考えられる多くの災害が発生しました。特に南房総地域は9月9日未明に千葉県に上陸した台風15号による暴風被害で家屋や電柱の倒壊、長期間にわたる停電、断水、通信障害など今まで経験したことのない大きな被害を受けました。

さらに10月12日に伊豆半島に上陸した台風19号および10月25日の台風21号の影響による大雨などの水害が追い打ちをかけました。当院は停電の影響はあったものの、安房地域全体の核となる災害対策本部を立ち上げ、多くの医療支援チームと連携し、十分な役割を果たすことが出来たと思います。実際、職員の多くが被災者でありながら、医療人としての責任感、価値観を持ち、地域のために頑張った結果であり、心より敬意をはらい、感謝をいたします。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、活気あふれる一年になることでしょう。しかし、日本全体を見ると、人口の東京一局集中が進む中、地方の少子高齢化、過疎化が止まりません。安房地域も人口は毎年1,700人以上減

少しづつ、高齢化、独居化、貧困化が進んでいます。このような状況の中で、私どもは医療サービスの担い手として、質の高いサービスを効率的に提供し続けるための、抜本的改革を行う責任があります。

今年の亀田グループの新たな取り組みのひとつに、エキスパートナースやフローティングナースの養成があげられます。エキスパートナースとは、診療科に所属し医師と共に様々な診療行為を行い、特定の行為を専門的に行うナースです。こうした特定行為看護師や、専門看護師の養成を組織として支援しようというものです。またフローティングナースとは、忙しかったり、人手不足の病棟の支援を行うナースで、診療科を越えて臨機応変に対応するいわゆるジェネラリスト的なナースです。基本的には救急や集中治療系に籍を置きます。これらはすでに米国等では当たり前のシステムです。

一方、地域としての質の向上と効率化など将来計画もスタートさせたいと考えています。まずは房総メディカルアライアンスを活用した、将来に向けた地域包括ケアシステムを構築するための議論を重ねてゆきたいと考えています。故郷を守り、存続させてゆくための改革に残されている時間はわずかです。次世代に素晴らしい故郷を残すためには、素早い決断と行動が必要です。是非みなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、今年が災害のない素晴らしい年になることをご祈念申し上げご挨拶いたします。

診療科のご紹介	総合診療科	消化器内科	循環器内科	腎臓内科	糖尿病甲状腺 内分泌内科	脳神経内科
	小児科	リウマチ・膠原病・ アレルギー内科	膠原病内科	呼吸器内科	皮膚科	腫瘍内科
	外科	肛門科	整形外科	スポーツ整形	形成外科	乳腺外科
	救急科	透析科	泌尿器科	甲状腺外来	リハビリ テーション科	

整形外科



整形外科では四肢や脊椎などの運動器疾患を対象とした診療を行っています。高齢者の骨折や変性疾患など手術を必要とする症例も多く、2019年は9月の台風被害にも関わらず11月末時点で400件を超えています。ちなみに2014年のおひさまニュース掲載時の手術件数は年間約300件で、当院の役割が大きくなってきていることに気づかされると同時に、この地域の人口が減少傾向にあることを鑑みると、地域の高齢化を実感せざるを得ないというのが正直な感想です。

整形外科としては、今後も従来通り地域で必要とされている医療を提供し続けていくのはもちろんのことですが、これまでに提供できなかったような医療を提供できるようにしていければと考えています。その第一弾として、2019年4月より、亀田総合病院の佐々木真一先生による脊椎専門外来が設けられました。既に多くの患者さまが受診されており、亀田総合病院で手術を受けられた患者さまも少なくありません。将来的には当院でも脊椎手術ができるようになれば、当院の発展にもつながるものと考えています。また、私は2019年4月から当院に赴任いたしました。それまでは大学で人工骨の開発、そして培養細胞や薬剤を使用した骨再生の研究などに従事して参りました。既にその人工骨は発売されていますが、今後は、これらの研究を通して得た知見を生かした新しい整形外科医療を開発、提供することで、脊椎外来とともに整形外科にプラスαをもたらすことができると考えています。

んのことですが、これまでに提供できなかったような医療を提供できるようにしていければと考えています。その第一弾として、2019年4月より、亀田総合病院の佐々木真一先生による脊椎専門外来が設けられました。既に多くの患者さまが受診されており、亀田総合病院で手術を受けられた患者さまも少なくありません。将来的には当院でも脊椎手術ができるようになれば、当院の発展にもつながるものと考えています。また、私は2019年4月から当院に赴任いたしました。それまでは大学で人工骨の開発、そして培養細胞や薬剤を使用した骨再生の研究などに従事して参りました。既にその人工骨は発売されていますが、今後は、これらの研究を通して得た知見を生かした新しい整形外科医療を開発、提供することで、脊椎外来とともに整形外科にプラスαをもたらすことができると考えています。

そうとめ しんいち
早乙女 進一 部長

出身地: 埼玉県
趣味: ドライブ・ゴルフ
房総の好きなところ: 自然
子供の頃から馴染みがある



救急のふじえ先生がお答えします!



≡その3≡

具合が悪くなったらすぐ救急にかかった方がいいの?
迷った時はどうしたらいいの?

「夜間の方がすいているから」「昼間は仕事があるから」などの理由で、急を要さない状態でも休日や夜間に救急受診する方が増えています。軽症患者さまで混み合い、本当に救急医療が必要な重症患者さまへの治療や処置が遅れることが懸念されています。

救急を本当に必要としている患者さまが安心

して受診できるようみなさまのご理解ご協力をお願いします。

救急を受診するべきか、救急車を呼ぶべきか迷った時は以下の連絡先をご活用下さい。

こども急病電話相談 (毎日19時～翌6時)
プッシュ回線・携帯電話 局番なしの #8000
ダイヤル回線・IP電話・光電話 043-242-9939

救急安心電話相談
(平日・土曜 18時～23時、日・祝日 9時～23時)
プッシュ回線・携帯電話 局番なしの #7009
ダイヤル回線・IP電話・光電話 03-6735-8305

スマホアプリ
全国版救急受診アプリ Q助



患者参加型の医療安全

医療安全管理室
セーフティマネージャー

川洲朋美

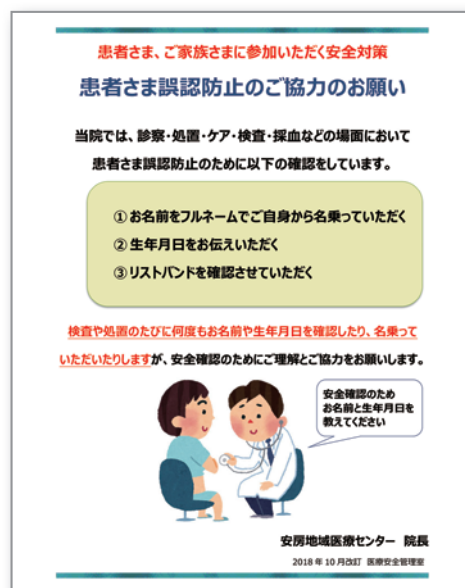
医療安全管理室は、患者さまと直接関わりを持つことの少ない部署ですが、病院にとっては非常に重要な役割を担っていて、患者さまに安全で安心な医療を提供する仕組み作りをしています。例えば、患者間違いを起こさないためのルールとして、患者さまを特定する時は、【名前と生年月日を患者さま自ら名乗っていただき確認する】もしくは、【名前と診察券番号をリストバンドで確認する】というように2点確認を行っています。

同じ事を何度も確認されるのは面倒だと思われるでしょうが、患者間違いは大きな事故につながります。患者間違いを防ぐためにも「親しき仲にも患者確認あり」として、患者さまのご協力をお願いいたします。

その他の活動として、転倒・転落事故の防止があります。病院内の環境整備(手すりの設置や危険箇所の表記)を行っています。入院患者さまの転倒の危険度を評価し、高い危険を伴う患者



さまには、リストバンドに黄色いリボンをつけさせていただきます。また、診察券に^{かかと}シールを貼り、職員全員で見守りを行っ



ています。この活動で患者さまに協力していただきたい事は、履物です。クロックスや踵部分のない履物(スリッパ、サンダル等)は、転倒の危険が増します。外来受診や入院の際は、踵まであるはき慣れた靴をご用意ください。

以上のように医療安全活動は、患者さまの参加が不可欠で、ご協力なくして成り立ちません。当院の医療安全活動に、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

おひさま[☀]キッチン



いつもはあたりまえのように食べているお食事ですが、毎回献立を考えたり調理することが、負担になっている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？特に医師から、カロリーや塩分等の制限を指示されたり、歯の不具合や飲み込みの力が低下した場合には、ご自宅で準備する事が難しくなってしまう事も少なくありません。そんな時、そんな悩みに応えてくれるのが「配食サービス」です。特に治療食の場合、医師や栄養士の指示に基づき、調理や味付けの工夫をしたり、ご飯の炊き方やおかずの形態等もご利用者の機能に応じた硬さや大きさに対応してくれる事業所が増えています。

ご存知ですか？ 配食サービス

安房地域総合相談センター センター長 香田道丸

様々な事業所が参入しており、電話やインターネットで申し込める窓口が殆どです。また、手渡しの事業所は、ご利用者の安否確認にもなりますので、お一人暮らしの方の安心にもつながるサービスです。

地域の福祉行政が窓口となっている配食サービスは、主に独居の高齢者や高齢世帯、障害をお持ちの方が対象ですが、通常1食450～500円のお弁当が、非課税世帯や生活保護の方は300円で利用できる市町が多いです。詳しくはお住まいの福祉行政の窓口や当院の医療・福祉相談室にお問い合わせください。





房総メディカル アライアンス情報



2018年12月に地域医療連携推進法人「房総メディカルアライアンス」が設立されてから1年が経ち、より安定した運営に向け、数々の課題に取り組んでいます。なかでも、患者さまの円滑な紹介や病床の調整は、昨年の台風・大雨による災害時には、この法人の重要性を改めて認識させられました。当院は地域災害拠点病院として、災害時の病床の確保は不可欠であり、富山国保病院との円滑な連携により、それぞれの役割を担うことができました。

あなたは大丈夫？ 冬のインフル・ノロ対策



11月10日(日)に地域住民との対話プロジェクト awa-cafe Project 主催

の感染予防勉強会が当院2F講堂で開催されました。15名が受講し、医師や薬剤師による講義、感染管理認定看護師からの正しい手洗いやマスクのつけ方の講習、それらを元にグループに分かれて感染予防のスローガンを考えました。「他の人にも伝えたい」「今季の感染症流行期を乗り切れ

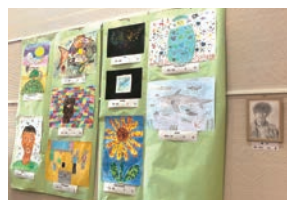


そう」など、参加者全員から意見が出され、スタッフと共に楽しく有意義な時間を過ごしました。

「健脚道場～ロコモ測定会～」に参加



11月16日(土)に「第3回たてやまかいごフェスタ～福祉でつながる地域の未来～」がイオンタウン館山で開催されました。このイベントは、地域の力を活用して、介護をより地域に近づけ、やさしく住みやすく元気になる街「館山市」を目指しています。館山市リハビリテーションネットワーク(館山市内のリハビリ職員の団体)が出展した「健脚道場～ロコモ測定会～」の運営スタッフとして、当院リハビリテーション室理学療法士 原田直紀さんと大古麻由さん、言語聴覚士 根本達也さんが参加しました。健脚道場ブースは、ロコモティブシンドローム(運動器を原因とする移動能力の低下)予防の啓発活動として出展され、多くの来場者でにぎわいました。



こども作品展 2019

11月1日から1月24日まで、本館1階中央廊下で「こども作品展2019」が開催されています。どの作品も、0歳から高校生までの当院職員のお子さまたちの絵で、個性あふれる力作揃いです。

9月以降の度重なる災害に見舞われた安房地域のみなさまに、子どもたちの生き生きとした作品に触れ、心を和ませていただければという思いで企画されました。

編集 後記



おひさまニュース
バックナンバー

いよいよ今年はオリンピックイヤーです。準備も大詰めとなってきた昨年11月中旬、東京港オリパラ関連施設会場視察クルーズに行ってきました。東京日の出桟橋から出航して、豊洲市場や臨海エリアの選手村、各競技の関連施設を海上から船で一周する

コース。遠目に見える各施設で繰り広げられる熱戦を想像するだけでわくわくしました。夏の開催に向け日本への注目が高まる年です。関わった全てのみなさまの力が発揮できるよう微力ながら応援いたします。

じゅんべりい

